



# 竹林

白河市立五箇中学校だより No. 3 1

発行 令和3年11月12日  
発行責任者 校長 菅野 靖



## 五箇中のホームページに全国学力・学習状況調査の分析結果を公表

1学期に実施した全国学力・学習状況調査の五箇中学校3年生の結果に対する分析結果を五箇中学校ホームページにアップしました。実施教科の正答率は、全国の平均正答率に対して「国語で19.4ポイント」、「数学で13.8ポイント」上回っている結果です。学校の教育活動の評価の一つとしてとらえていただければと思います。また、学習や生活の状況についても、「8割以上の生徒が家庭で計画を立てて学習していること」や「半数以上の生徒が2時間から3時間、家庭学習に取り組んでいること」、「6割以上の生徒が30分以内の読書時間であること」など、全国と比較した学習や生活についての分析結果が掲載されています。分析結果についてご覧いただき、学校での学習状況や家庭での生活状況についてお話しをする機会にいただければと思います。

### 11月は『読書月間』【読書月間イベント】秋の読書ポイントスタンプラリー開催

終戦まもない1947年（昭和22）年、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社や書店、公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がりました。



五箇中学校では、この『読書週間』の期間を含めて、11月を『読書月間』として多くの本に触れあうために【読書月間イベント】を開催しています。

【読書月間イベント】とは、この期間中に五箇中学校の図書館で本を1冊借りるごとに、個人の読書ポイントシートにスタンプが1つ押されます。読書月間の貸出目標冊数の6冊分の読書ポイント（スタンプ）がたまると、素敵な「オリジナルしおり」がプレゼントされるという企画です。どんどん本を借りて何枚もの「オリジナルしおり」を手に入れ、多くの良書に出会ってほしいと思います。



日本は世界有数の「本を読む国民の国」だそうです。電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。その使い手が人間であるかぎり、その人の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。読書週間のポスターに次の言葉が掲載されています。

『最後の頁を閉じた 違う私があった』（良書によって、今までの自分ではない自分に巡り合えるのでは）

暮らしや人生のなかに、電子メディアでは得られない、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれてはいかがですか。

### 秋の全国火災予防運動実施中

### 消防署員の方の指導の下、火災を想定した避難訓練と消火訓練を実施

11月9日～15日まで、秋の全国火災予防運動が実施されており、県内各地で防火訓練等が行われています。

五箇中学校でも、11月8日（月）に火災を想定した避難訓練を実施しました。今回は、校舎内の家庭科室からの出火を想定し校庭の野球のバックネット前に避難しました。避難は頭部を守りしゃべらずに煙を吸い込まないように整然と非難し、避難場所では、迅速に人員点呼ができていました。

避難後に消防署員の方から消火器の使い方についてご指導をいただき、代表の生徒による火の元を想定した消火訓練を行いました。その後、生徒から「どのくらいの火だと消火器で消せるのか」「火には全体にかけた方がいいのか」「消火器がないときの対応について」など、積極的に質問がありました。

昨年の県内の総火災件数は494件で、死傷者数は24人だったそうです。火災は、いつ、どのような状況で発生するかわかりません。冷静に避難行動をとるために、状況を判断し、自ら考え、行動する力を身に付けてほしいと思います。



【真剣に避難する生徒】



【消火器による消火訓練】